

令和元年度 白血病・リンパ腫委員会活動報告

(1) 稀な白血病に関する調査

学会での研究承認を得た上で、学会登録データ 2006 年～2013 年診断 ALL 中の不明症例及び稀な白血病で、疾患登録委員会を通じて、PTOSH に依頼したところ 186 例が抽出された。2015 年 9 月に二次調査も全て終了し、委員で分担しデータを解析した。

このうち tAL（治療関連白血病）については今村委員が学会発表を行い、International Journal of Hematology (IJH) に publish された。

・ Imamura T, Taga T, Takagi M, Kawasaki H, Koh K, Taki T, Adachi S, Manabe A, Ishida Y; Leukemia/Lymphoma Committee; Japanese Society of Pediatric Hematology Oncology (JSPHO). Nationwide survey of therapy-related leukemia in childhood in Japan. Int J Hematol. 2018 Mar 24. doi: 10.1007/s12185-018-2439-x. [Epub ahead of print]

顆粒球肉腫については多賀委員が 2016 年の小児血液・がん学会で発表、論文は IJH に投稿し、publish された。

・ Taga T, Imamura T, Nakashima K, Maeda N, Watanabe A, Miyajima Y, Sakaguchi S, Sano H, Hasegawa D, Kawasaki H, Adachi S, Takagi M, Koh K, Manabe A, Taki T, Ishida Y: Clinical characteristics of pediatric patients with myeloid sarcoma without bone marrow involvement in Japan. Int J Hematol. 2018 Oct;108(4):438-442.

MPN については嶋田委員が担当し、2019 年 12 月のアメリカ血液学会 (ASH) で報告予定である。

NK/Myeloid leukemia については高木委員が解析中であり、論文投稿の準備を行っている。

(2) 血液がんの case-control study と CLIC について

浦山委員を中心とする研究に学会の白血病・リンパ腫委員会として協力していくことが確認された。まず聖路加で pilot study が行われ、現在関東の TCCSG を中心とする施設に広げられて研究が行われている。すでに 140 例以上の症例の検体・アンケート調査が集積されている。今後は全国規模の研究に拡大していく方針であり、小児血液・がん学会理事会でも協力しておくことが確認された。

(3) 旧学会登録のデータ解析

旧登録で収集した情報を基に論文化作業に取り組む方針が合意され、具体的な解析対象として、乳児 ALL やホジキン等が挙げられた。地域差の解析も重要と指摘された

データ提供依頼の方法について、学術・調査委員会と調整中である

以上

文責：康 勝好